

149 東京法学院英語科懇話会

〔『法学新報』第一二二号 明治三十四年五月二十日〕

○法学院英語科懇話会

明治三十四年五月五日於松本亭法学院英語科大懇話会を催す、会するもの三十有五名、午後一時本院庭前に於て一同撮影す、講師土方寧、平山銓太郎、福岡秀猪の三先生並に院友佐藤章次君又幸に同影の榮を辱ふす、了りて一同松本亭に参集す、土方先生は大学教授会懇親会の為め、平山先生は病痾の為め席に連らす故に其高話を拝聴するを得ざりしを憾む、本間信藏君拍手の裡に起ちて開会の主旨を述べ了りて福岡先生の講話を乞ふ、先生熱心懇篤、余等修学上の方法、並に欧米の法律学校の有様等に付き縷々一時間に亘りて説明を与へらる、実に余等の好鍼とすへきものとす、次に星野照君、馬場金吾君、中西健人君、佐藤壽夫君等、交々熱誠を揮ふて各其抱負を吐露し、且つ今後本会の方針等に付きて論せらる、所あり、次に本会の規則大綱五个条を定む。

其れより茶菓に移る、加ふるに「ビール」の饗ありて談は愈々

佳境に進み、各胸襟を開きて愉々快々、満面の赤まると共に大に其心情を暖めたり、忽ち吟声一隅に起り満場之を和して真に豪気堂々、或は剣を提けて舞ふあり、風は蕭々として易水寒く座客をして不思議飛ひ肉躍らしむ、加ふるに茶番の奇々妙々なる、雷遊の新妙なる抱腹絶倒歎声暫時不止衆十二分の歡を尽し午後七時を以て閉会す此日土方、平山、福岡三先生より金円を寄附せられ及び院友瀬下清亮君より「ビール」一ダースを寄贈せられたり、余輩實に感謝に不堪所也又肥田講師出席を約せられしも急用出来、電報を以て通知ありき（幹事報）